研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-142	A-169	21-414	佐賀県医療センター好生館　角南隆史 独立行政法人国立病院機久里浜医療センター　松下幸生

題名（原題／訳）

The burden of alcohol on health care during COVID-19
COVID-19 期間中のアルコールの医療への負担について

執筆者

Stockwell T, Andreasson S, Cherpitel C, et al.

掲載誌

The burden of alcohol on health care during COVID-19. Drug Alcohol Rev. 2021;40(1):3-7. doi:10.1111/dar.13143

キーワード	PMID
アルコール、コロナウイルス感染症、ヘルスケア、死亡率、政策	32835427

要旨

アルコールが世界の健康に与える影響は大きく、COVID-19 の影響と同程度の大きさです。現在、アルコールは、重度の呼吸器感染症、家庭内暴力、児童虐待、うつ病、自殺のリスクを高めるなど、特定の問題を引き起こしています。アルコールの使用は、物理的な距離を置くことやその他の予防的な行動手段の助けにはなりそうにありません。世界的に見ても、アルコールは傷害の 20%、非傷害の救急外来の 11.5%を占めています。われわれは、北米におけるアルコール起因の入院・死亡と COVID-19 関連の入院・死亡について、最新のデータを用いて大まかな比較をしています。例えば、カナダでは 2017 年に 105,065 件のアルコールに起因する入院があったと推定されていますが、これはパンデミックの最初の 5 カ月間に報告された 10,521 件の COVID-19 による入院よりも、時間の経過とともに大幅に高い割合を示しています。現在、医療サービスを守ることが重要であるにもかかわらず、ほとんどの政府は、アルコール販売を食料、燃料、医薬品と同様に不可欠なものとみなしています。多くの国で、アルコールはかつてないほど容易に入手でき、手頃な価格で手に入るようになりました。私たちは、最前線の医療サービスと公衆衛生を守るためには、アルコールの価格、入手のしやすさ、販売のしやすさについて、エビデンスに基づいた適度な制限を導入することが不可欠であると主張します。特に、医療サービスへの影響を軽減し、この重要な時期に政府が必要としている収入を得るために、課税の増加と最小単位の価格設定を行うことを推奨します。